

<GAP 普及大賞 2018>**京丸園株式会社が受賞！****「GAP を活用して障害者・高齢者と共に成長する****イノベーションの取組」が評価されました。**

一般財団法人日本 GAP 協会（代表理事専務：松井俊一）は、GAP 普及大賞 2018 の選考委員会を開催し、3 つの GAP 普及の優良事例を表彰することを決定しましたので、ご報告致します。

■GAP 普及大賞受賞事例：京丸園株式会社

京丸園株式会社は、農福連携に取り組むことで、障害者と共に成長し新たな価値を生み出すイノベーションを推進しています。この取組に JGAP を活用することで、作業工程の明確化と標準化を達成し全体が働きやすい職場を実現していることから、農福連携の分野における GAP 普及の好事例として高く評価されました。

京丸園株式会社は、作業工程を細分して、その工程の手順を明確化、標準化することで、障害者が正確で効率的な作業環境を牽引できることに気付き、農業生産の品質や生産性の向上につなげています。同社は、この作業工程の標準化に、平成 25 年から JGAP を活用しています。

水耕栽培でミツバ、チンゲン菜、芽ネギを生産しており、89 名の社員のうち 24 名が障害者です。また、民間企業とも外部委託契約を結び多くの障害者を受け入れています。これも GAP により作業を標準化していることで可能になっています。また、同社は障害者だけでなく高齢者も採用しており、年齢・性別を問わず多様性のある組織構成として労働力不足を乗り越え、組織としての持続性を目指しています。このように組織の持続性と農福連携の推進に GAP を活用する京丸園株式会社の取組は、今後の農業経営のあり方にも示唆を与えてくれるものであり、GAP 普及大賞にふさわしいものと高く評価されました。

GAP 普及大賞は、一般財団法人日本 GAP 協会が主催する、今年一年間で最も GAP の普及に貢献した取り組み事例を表彰するものです。GAP 普及大賞 2018 の選考委員は次の通りです。

岩元明久（日本農業普及学会 副会長）、小池 甲（新潟県三条地域振興局農業振興部企画振興課 主査普及指導員）、田口光弘（農研機構中央農業研究センター農業経営研究領域 主任研究員）

この京丸園の取組に加え、下記の 2 事例が同時に受賞しました。いずれも甲乙付け難い GAP 普及の優良事例です。

－GAP 普及大賞－ <受賞者> 豊田肥料株式会社

－同 特別賞－ <受賞者> 福島県・福島県農業協同組合中央会

以上の 3 受賞事例について、下記のシンポジウム内で表彰式と受賞者による記念講演が行われます。ぜひご来場下さい。

■シンポジウム「GAP Japan 2018」

- ・日時：2018 年 10 月 3 日（水） 13 時から 17 時 30 分
- ・場所：東京大学 弥生講堂（東京都文京区弥生 1-1-1）
- ・関連ホームページ：<https://2018.jgap.asia/> ※参加申込を受付中です
- ・問合せ先：荻野（おぎの）TEL 03-5215-1112 FAX 03-5215-1113 E-mail: info@jgap.jp